

# 「森銑三刈谷の会」だより No. 5

発行 2022年2月26日 (月刊・メールでの投稿歓迎)  
例会 第3土曜日 14:00-16:00 (2022/2は第4土曜日)

会場 刈谷市中央図書館 参加自由・資料代100円  
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu\_s@katch.ne.jp

## 8|4|土 刈谷ホームニ

昭和59年(1984) 第166号  
無料・隔週土曜発行 発行所 刈谷ホームニュース社 刈谷市守轄 電話 刈谷



森 銑三氏

### 偉大な業績一目で

刈谷出身で、江ノ島、雪華、雪華の研究者として知られる森銑三氏(1874-1967)の業績をまとめた『雪華図説』(1938)の複製展示会が、8月17日まで、刈谷市中央図書館で開催されています。展示会では、『雪華図説』の複製本、森氏の著書、色紙など100点、森氏の生誕地である、刈谷市中央図書館に展示されています。展示会は、8月17日まで、刈谷市中央図書館で開催されています。展示会では、『雪華図説』の複製本、森氏の著書、色紙など100点、森氏の生誕地である、刈谷市中央図書館に展示されています。

著書、色紙など100点  
刈谷出身の学芸史家森銑三氏  
31日まで 郷土資料館で展示会



「偉大な業績一目で」

刈谷ホームニュース(1984/8/4:1)「偉大な業績一目で」

### 第5回 (2022/1/15) 兵藤吾津夫さん「刈谷ホームニュースが伝えた森銑三」13人

刈谷ホームニュース元編集長の兵藤吾津夫さんに実際の紙面に基づき話していただいた。「偉大な業績一目で」(1984/8/4:1)=上掲=、「若き日の森銑三氏も 大正六年の写真発見」(1986/10/4:2)、「近世人物研究に偉大な業績 生誕100年記念で展示会」(1995/10/7:2)、「文芸活動の足跡後世へ 広小路の生誕地に案内板」(2016/8/6:2)の4点である。兵藤さんの筆によるもので、図書館蔵である。

「偉大な一」は銑三生前(89)で、展示会開催の経緯ははっきりしないという。「若き日の一」の写真は図書館から情報提供を受けた。この一枚の写真には、銑三を語るには欠かせないエピソードがこもっているという。記事の写真「縦二十七センチ、横二十四センチ」「蔵書二千五百冊」「図書館の建築を担当した井野直治氏」は、「縦二十四センチ、横二十七センチ」「蔵書二万五千冊」「町議一

」の誤記とのこと。「近世人物一」は半面の大作で、森銑三百科の様相を呈する。「文芸活動一」には正木敦子さんなど当日参加の顔が見える。

刈谷ホームニュースは市井記事の宝庫である。保管は全国で刈谷市図書館のみである。(哲)

### 神谷磨利子さん『『雪華図説』(土井利位)と森銑三』

中日新聞(2021/11/21)日曜版「今も愛される江戸のデザイン」の特集記事に土井利位(としつら)が雪の結晶を観察して記した『雪華図説』の写真(古河歴史博物館所蔵)が載っていた。「序文」末尾に「許鹿源利位述」の文字と「古河城主」の朱印がある。この印につき森銑三が『読書日記』(『森銑三著作集続編』第14巻)1938年の項で述べていたことを紹介した。

銑三は当時、加賀翠溪の文庫の整理を任されていたが、同文庫に『雪華図説』正統が揃っていること(3/27)、その書には「古河城主」の朱印があったが、以前に西尾の岩瀬文庫で見た同書は「雪堂」「位」の二印であったこと(8/27)を記している。銑三は前年37年岩瀬文庫に行っている(8/22)。そこで見た『雪華図説』の覚書と加賀文庫蔵書とを比較し印に違いのあることに気づいたのである。銑三の覚書と記憶の確かさに感じ入った。加賀文庫蔵書は古河歴史博物館所蔵本と同じ「古河城主」の印である。銑三は贈呈先により印を変えたのかと想像している。利位は刈谷藩主土井利徳の四男で宗家・古河藩の養子になった人である。家老鷹見泉石の業績と合わせ、興味は尽きない。(神谷)

### 今後予定

- 2022/2/26 尾崎隆「森銑三と亀城尋常小学校代用教員時代の教え子たち」/ 神谷『森銑三刈谷日記』
- 2022/3/19 鈴木「森銑三と渋沢栄一の孫阪谷俊作」/ 神谷「宍戸俊治先生と森銑三」